

トラック輸送情報（平成16年8月分）

平成16年11月11日
国土交通省総合政策局情報管理部交通調査統計課
担当：高橋、荒木 内線28315
直通：03-5253-8342
ホームページ <http://www.mlit.go.jp/>

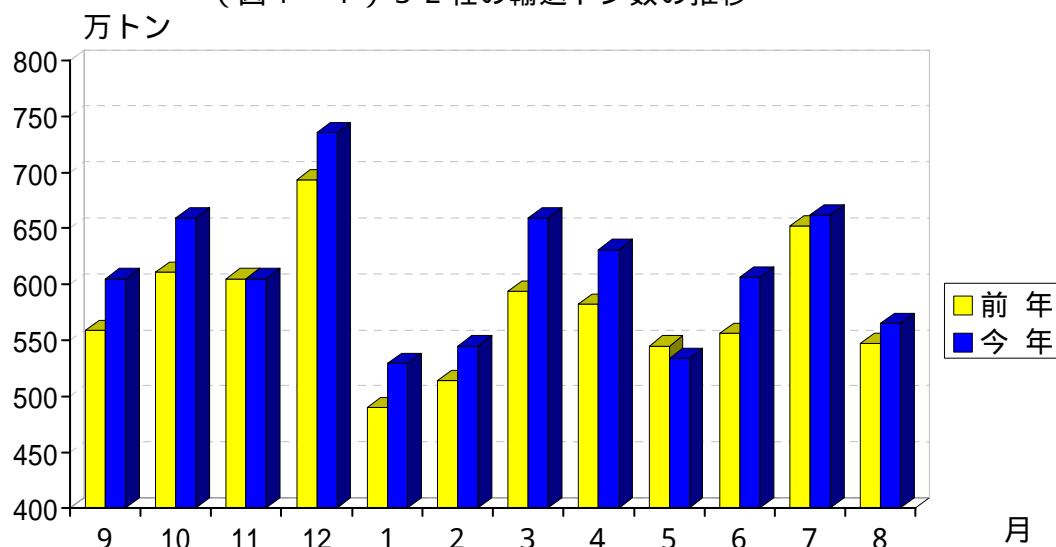
1. 特別積合せ貨物

(1) 本月の概況

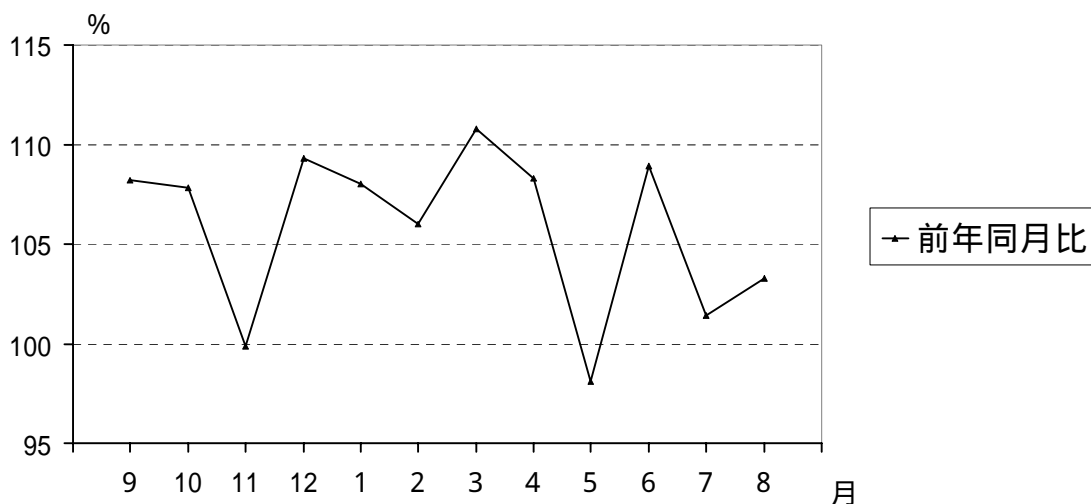
調査対象32社の本月の輸送量は、5,649,471トンで、前月と比べ、総輸送量が約97万トン減少したため、前月比85.4%（季節調整済み100.7%）、前年同月と比べると、約18万トン増加したため、前年同月比103.3%の実績であった。

なお、平均稼働日数は、23.4日で、前月と比べ、1.7日の減少、前年同月と比べると、0.6日の増加であった。稼働1日当たりの輸送量は、241,430トンで、前月と比べ、約2万トン減少したため、前月比91.6%、前年同月と比べると、約2千トン増加したため、前年同月比100.6%の実績であった。（図1-1、図1-2参照）

(図1-1) 32社の輸送トン数の推移



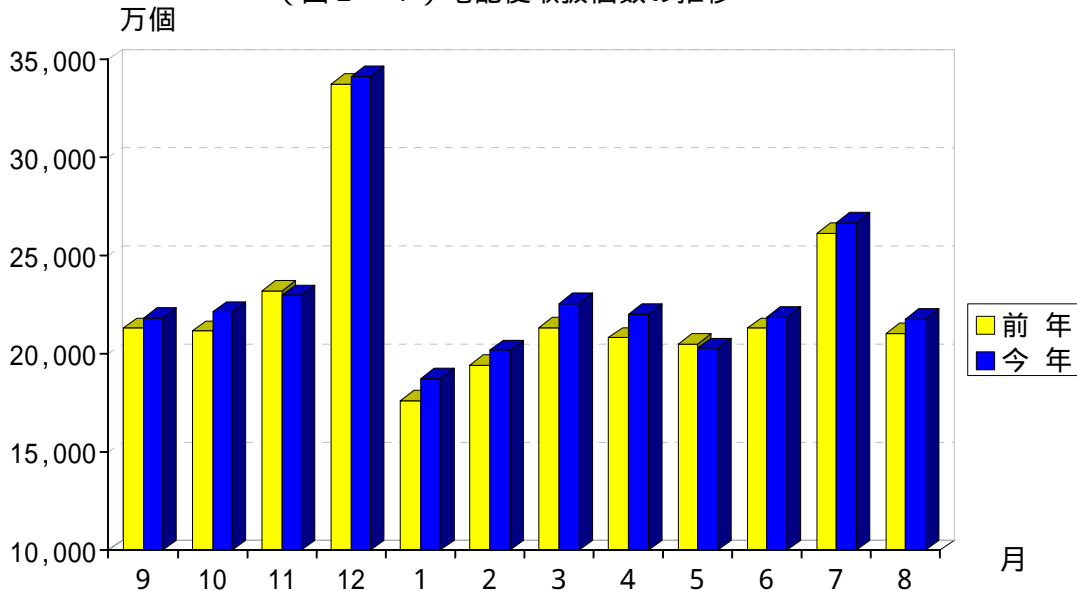
(図1-2) 32社の輸送トン数の前年同月比



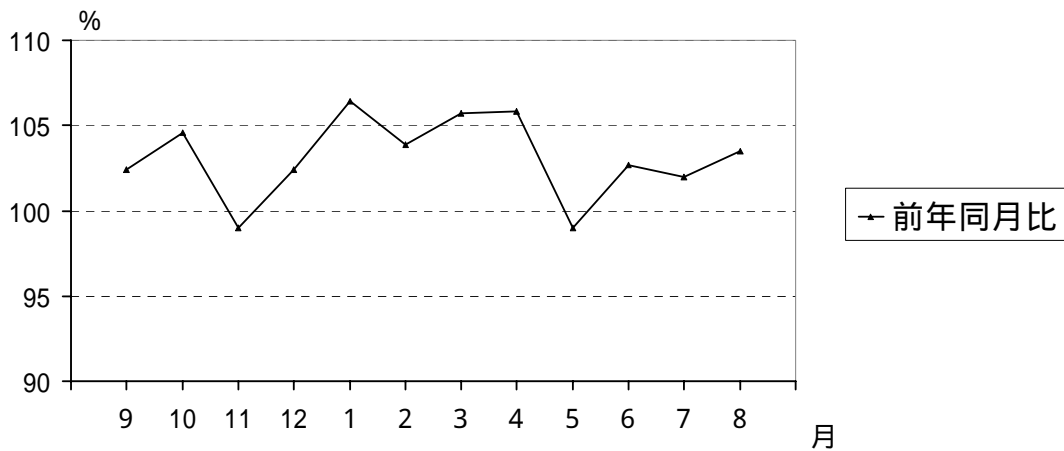
(2) 宅配便の概況

調査対象20社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、218,056千個で、前月と比べ、約 4,868万個減少したため、前月比 81.8% (季節調整済み 102.9%)、前年同月と比べると、約 736万個増加したため、前年同月比 103.5%の実績であった。(図 2 - 1、図 2 - 2 参照)

(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(3) 品目別及び地域別輸送状況 (表 1 参照)

前月と比べると、荷主ならびに調査事業者の夏期休暇に伴う稼働日数の減少、また、7月のお中元期の輸送需要終了により、全体的に輸送量の減少がみられた。理由としてはほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物減を主な理由としている。また、食料工業品、日用品、その他はデパート等からの貨物減もみられた。地域的には農水産品は北海道、東北、中国、九州で輸送の減少が見られ、農水産品以外の品目においては関東、近畿地区を中心に輸送の減少が見られた。

前年同月と比べると、全体的には輸送量が増えたものの、品目により輸送の増減がみられた。特に食料工業品は昨年よりも気温が高かったことにより、飲料を中心として輸送の増加がみられた。理由としてはほとんどの品目で工場・生産地、商社・問屋や倉庫等からの貨物増、貨物減を主な理由としている。地域的には農水産品は北海道、東北等からの輸送が増加、あるいは減少が見られ、農水産品以外の品目においては関東、近畿地区を中心に、機械、食料工業品は増加、化学工業品、繊維工業品、日用品は減少が見られた。

(表1) 品目別増減状況(回答事業者数 32社)

品目	増減事業者数			主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	増減要因		
	著増	変らず	著減					
前月に比べて	農水産品		11	3	3	野菜、果物	中国、北海道、東北、九州	4
	金属製品	1	15	9	1	その他の金属製品	関東、中部、大阪、兵庫、神奈川	4,7,8
	機械		13	12	2	機械部品、電気機械、その他の機械	関東、北陸信越、神奈川、中国ほか	4,7,8
	化学工業品	2	11	14	1	その他の化学工業品	神奈川、大阪、中国、東京、関東、兵庫ほか	4,7,8
	繊維工業品		18	10		織物、繊維	大阪、近畿	4,5,8
	食料工業品	1	11	13	2	加工食品	東北、関東	
						加工食品、飲料、その他の食料工業品	神奈川、東京、兵庫、近畿	2,4,5,7
	日用品	2	12	12	1	印刷物、文具	神奈川	
その他						その他の日用品、印刷物、身廻品	東京、神奈川、大阪、近畿、北陸信越	2,4,5,7,8
	1	14	8	3	百貨店配送品、宅配貨物	全国、東京、神奈川、大阪、関東	2,4,8	
前年同月に比べて	農水産品	3	11	3		果物	九州、東北、北海道、東京	4,8
						野菜、果物	中国、北海道、東北	4
	金属製品	5	16	4		建築用金属製品	東京、神奈川、兵庫、中国	4,7,9
						その他の金属製品	関東、北陸信越、中部	4
	機械	6	20		1	機械部品	神奈川、関東、北陸信越	4,9
	化学工業品	2	19	7		塗料	大阪、東京	4,9
						その他の化学工業品、合成樹脂	東京、神奈川、関東、兵庫、中国	4,7
	繊維工業品	2	23	3		繊維	東京、大阪	4,9
						繊維	神奈川、北陸信越	4
食料工業品	7	15	4	1	飲料、その他の食料工業品	東京、神奈川、関東、大阪、兵庫	5,7	
					加工食品	関東、東京	2,4,5,7	
日用品	3	18	6		玩具、運動娯楽用品	東京、神奈川、大阪、兵庫	4,9	
					印刷物、衣服	関東、近畿、全国	5,9	
その他	5	17	4		宅配貨物、百貨店配送品	兵庫、東京、神奈川、大阪、九州、全国	4,9	
					宅配貨物、百貨店配送品	神奈川、大阪、全国	2,7,8	

(注) 「主な増減地域」については、16地域 [全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらをのぞく府県)]単位である。

増減要因	1.新規荷主獲得(荷主契約解除)	6.倉庫へ入る貨物増(減)
	2.デパート、スーパーの貨物増(減)	7.倉庫から出る貨物増(減)
	3.他機関から貨物が来た(へ流れた)	8.季節的需要増(減)
	4.工場・生産地からの貨物増(減)	9.景気の好況(不況)
	5.商社・問屋からの貨物増(減)	10.その他

2. 一般貨物

(1) 本月の輸送状況

全国的一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者数 843社 / 調査対象事業者数 1,082社）の輸送量は、前年同月比 101.3%、前月比 94.9%であった。

(表2) 地方運輸局別 前年同月比・前月比

	全国	北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄
前年同月比	101.3%	99.9%	100.4%	104.1%	100.8%	102.7%	106.5%	103.6%	99.4%	99.7%	104.1%
前月比	94.9%	99.2%	94.6%	94.4%	95.7%	92.2%	95.2%	89.6%	95.5%	91.8%	91.2%

(2) 本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月は、お盆休みを挟み稼働日数が減少したものの、好天に恵まれ各種工事が引き続き好調に推移し、「土砂・砂利」等の工事関連資材の輸送が順調に増加し、コーン・馬鈴薯などの農産物の収穫期を向かえたこともあり、対前月比99.2%とほぼ横ばいとなった。対前年同月比も99.9%とほぼ横ばいであった。今後の見通しは、工事関連資材の輸送量の維持が期待でき、上昇傾向で推移するものと思われる。</p>
東北	<p>本月は、「野菜・果物」など農作物の出荷が始まったものの、盆休みによる影響で稼働率も減ったため、全体的には対前月比94.6%と減少となった。対前年同月比は100.4%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しは次月及び以降とも上昇傾向にある。</p>
関東	<p>本月の輸送は、収穫期である「野菜・果物」の輸送量が増加し、また「紙・パルプ」も増加したが、全体的にはお盆休みの稼働日数減少により輸送量が減少した。このため、対前月比は94.4%となったが、猛暑の影響により「食料工業品（アイス、飲料）」の輸送量が多かったこともあり、対前年同月比は104.1%となった。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも減少傾向にある。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送は、原油価格の値上げが取り沙汰された影響で、石油製品類の需要が増大している事業者もあったが、お盆休みの影響で稼働日数が減少したため、全体的には対前月比は95.7%とマイナスとなった。また、対前年比についても、100.8%とほぼ横ばいであった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも上昇傾向にある。</p>
中部	<p>本月の輸送は、お盆休みの影響で対前月比は92.2%と減少した。また対前年同月比は102.7%と増加した。「砂利・砂・石材」「繊維工業品」等の増加がみられたが、減少品目としてはお盆休みによる工場等の稼働停止や、お中元期終了により、「金属製品」「その他石油製品」「化学薬品」「紙・パルプ」「日用品」をはじめとして多くの品目で減少がみられた。今後の輸送見通しは、次月及び以降とも若干の増加が見込まれる。</p>
近畿	<p>本月の輸送は、荷主の夏期休暇の影響から輸送量は減少し、対前月比95.2%と減少傾向を示している。しかし、一方で「セメント」など建設関係品目や、台風の影響で「金属製品（シャッター）」に増加が見られたため、対前年同月比では106.5%と増加傾向を示した。今後の輸送の見通しは、次月及び以降とも上昇傾向、以降は横ばい傾向にあると思われる。</p>
中国	<p>本月の輸送は、荷主・事業者のお盆休み及び台風の影響による稼働日数の減少により、「セメント」「砂利・砂・石材」を中心に輸送量の減少がみられ、対前月比89.6%となった。一方、対前年同月比は103.6%と増加している。今後の輸送の見通しについては、次月及び以降とも上昇傾向にある。</p>
四国	<p>今月は、対前月比は95.5%と減少、対前年同月比で99.4%とほぼ横ばいであった。天候（猛暑）や季節的需要で「食料工業品（飲料水）」の輸送量が増加する反面、お中元の贈答品の終了による「取り合せ品」の減少、お盆による建設工事、工場の休みによる「砂利・砂・石材」「セメント」「化学薬品」「食料工業品」の減少が見られた。今後の見通しは、台風の影響や燃料価格の高騰などもあり、ほぼ横ばい傾向にとどまるものと思われる。</p>
九州	<p>今月は、盆休みに加えて台風の影響が重なり、取引先の企業等が操業を休止する日が多かったため、稼働日数が例年・例月より減少した。この影響を受けて、輸送量は対前月比91.8%、対前年同月比99.7%となった。特に減少が目立った品目として、「野菜・果物」「畜産品」「水産品」「セメント」「食料工業品」が挙げられる。一方で、例年お中元等により季節的な需要が高まる「食料工業品」「日用品」「取り合せ品」では、若干輸送量が増加しているが、全体の輸送量を前月比増にするほどのものではなかった。今後の輸送の見通しとしては、次月以降増加に転じると事業者は捉えているようである。</p>
沖縄	<p>本月の輸送は、「野菜・果物（青さきりミカン）」の一時的な大量輸送の需要増加がみられたが、景気需要の「鉄鋼」「日用品」、季節的需要の「取り合せ品（引越貨物）」「食料工業品（飲料、学校給食）」「紙、パルプ（段ボールなど）」の減少が見られた。このため、対前月比では91.2%、対前年同月比では104.1%となった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が見込まれると予想される。</p>

(3) 運輸局別、品目別増減状況(対前月比)

回答のあった事業者数をとりとまとめた。各欄のうち上段は増加、下段は減少件数である。

運輸局		北海道	東北	関東	北陸信越	中部	近畿	中国	四国	九州	沖縄	全国計
1. 穀物	増	1	1	0	1	0	0	0	1	0	0	4
	減	2	2	0	1	0	0	2	0	3	0	10
2. 野菜・果物	増	6	7	4	1	0	0	0	2	1	1	22
	減	0	1	1	2	0	1	1	1	6	0	13
3. その他の農産品	増	2	0	0	0	0	1	0	0	2	0	5
	減	1	0	1	0	0	0	0	0	2	0	4
4. 畜産品	増	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1
	減	1	1	0	0	0	0	0	0	4	0	6
5. 水産品	増	1	1	0	0	1	0	0	0	1	0	4
	減	0	0	0	0	0	0	1	0	4	0	5
6. 木材	増	2	1	1	0	0	0	0	0	0	0	4
	減	5	1	1	2	1	0	2	0	3	0	15
7. 薪炭	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
8. 石炭	増	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
	減	3	0	0	1	0	0	0	0	0	0	4
9. 金属鉱物	増	0	1	0	1	0	0	1	0	0	0	3
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
10. 砂利・砂・石材	増	10	1	0	1	1	0	1	0	3	0	17
	減	9	4	0	2	0	0	2	1	1	0	19
11. 工業用非金属鉱物	増	2	2	0	0	0	0	0	1	1	0	6
	減	0	1	0	0	1	0	1	0	1	0	4
12. 鉄鋼	増	0	1	0	1	0	1	2	0	0	0	5
	減	0	0	1	1	0	1	2	0	1	1	7
13. 非鉄金属	増	0	0	1	1	0	1	1	0	0	0	4
	減	0	2	0	0	0	1	0	0	0	0	3
14. 金属製品	増	0	1	1	2	0	1	0	1	0	0	6
	減	0	3	1	2	2	0	0	0	3	0	11
15. 機械	増	1	0	3	3	0	0	1	0	4	0	12
	減	0	2	2	1	1	4	1	0	3	0	14
16. セメント	増	1	0	0	1	0	2	0	0	1	0	5
	減	2	3	0	1	1	0	4	3	6	0	20
17. その他の窯業品	増	0	0	0	2	0	1	0	3	0	0	6
	減	3	3	1	1	1	0	1	1	1	0	12

品目	運輸局	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
		海	北	東	陸	中	畿	国	国	州	縄	国
		道	北	東	信	部						計
					越							
18. 揮 発 油	増	3	0	0	1	0	0	0	1	0	0	5
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
19. その他の石油製品	増	0	0	0	4	0	1	1	1	0	0	7
	減	0	0	1	2	2	2	2	0	2	0	11
20. コークス・ その他の石炭製品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
21. 化学薬品	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	1	0	1	2	1	1	1	1	0	8
22. 化学肥料	増	3	2	1	0	0	0	0	0	0	0	6
	減	1	2	0	1	0	0	0	0	0	0	4
23. その他の化学工業品	増	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	2
	減	0	0	1	0	0	2	0	0	0	0	3
24. 紙 ・ パルプ	増	0	1	3	1	0	0	2	1	1	0	9
	減	3	1	0	0	2	2	1	1	4	1	15
25. 繊維工業品	増	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	減	0	0	0	1	1	0	0	1	0	0	3
26. 食料工業品	増	4	9	2	3	0	0	2	4	5	0	29
	減	2	5	1	2	0	2	0	3	6	1	22
27. 日用品	増	0	0	0	0	0	1	0	2	3	0	6
	減	1	3	1	0	3	2	0	0	4	1	15
28. その他の製造工業品	増	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2
	減	0	0	0	0	0	1	1	0	3	0	5
29. 金属くず	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
30. その他のくずもの	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1
31. 動植物性飼・肥料	増	1	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2
	減	2	1	1	0	0	0	0	0	3	0	7
32. 廃棄物	増	0	0	1	0	0	0	0	0	2	0	3
	減	0	0	1	0	0	1	1	0	2	0	5
33. 輸送用容器	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
34. 取り合せ品	増	0	0	0	0	0	0	1	0	3	0	4
	減	0	2	0	1	0	1	0	2	0	1	7
35. その他	増	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	減	0	0	1	0	0	2	0	0	0	1	4